

## 1. 日常の学習状況・課題について

- (1) 生徒の授業アンケートにおいては、自由記述欄に『実験が楽しい』『もっと実験を増やしてほしい』など書いている生徒が多く見られた。体験的な学習が好きで、実験・観察やモデルでの表現などに大変意欲的に取り組んでいる。ただ、目の前で起こっている事象について、素直に感動することはできるが、筋道を立てて考え、自分の考えを整理し、ことばで表現することに苦手意識をもっている生徒がまだ一定数見られる。
- (2) 日常的に『なぜだろう』と考える経験が乏しく、自分で仮説を立てたり結論を出したりすることを避け、正解を教えてもらおうと受け身になってしまう生徒が多い。
- (3) 家庭学習の習慣が身に付いていないため、学んだ知識がなかなか定着しない生徒が一定数見られる。
- (4) 全国学力調査では、平均正答率で全国平均（49.3%）を上回った（50.0%）。  
日  
常的な課題を科学的な見方で考えることが、おおむねできていると考えられる。

## 2. 改善の計画

- (1) 学習面
  - ①生徒が主体的に考え、学びを深めていくことができるよう、「自分で考える時間」→「少人数グループで学び合う時間」→「他のグループの発表を聞き、自分の考えを再構築する時間」を授業の基本的な流れとしていく。
  - ②学習活動のすべてを「探求」とするため、日常生活や既習事項とつながる、わくわくするような「課題」を提示する。課題に対する「仮説」を立て、検証するための「方法」を考え、目的意識をもって「実験・観察」を行うことで、生徒が課題に対する「結論」を見いだしていけるようサポートする。
- (2) 指導面
  - ①演示実験やスライド、実験動画、モデル化などを活用して、原理や法則を視覚的にとらえさせる。
  - ②実験の考察については、各実験班の結果をクラスで共有しながら、結論へとつながる明確なポイントを探し出し、根拠と結論を明確にした考察を自分のことばで記述できるよう、スモールステップで指導していく。
  - ③生徒が自分で考えた意見を常に教師が尊重することで、正解・不正解だけではなく、自分で考えることの楽しさや喜びを実感させる。

## 3. プランの評価方法

- (1) 授業アンケートを行い、変容を見る。
- (2) 実験レポートやノートをチェックする。
- (3) 観点別学習状況の評価を前学期と比較する。